

## 冬と台風（口絵写真11）

1979年1月1日、ガム島方面に台風第1号が発生して早期発生の記録を更新している。台風が冬に発生することは数こそ少ないが、意外に発達している例が少なくない。1970年までの過去30年間の台風発生回数833回中、11、12および1月に126回発生しており全年の15%を占めている。

この画像は、北半球に冬型パターンの雲と台風が同居している例である。日本付近では太平洋側に冬型特有の対流性雲細胞が広く分布している。台風は冬期ではあるが中心に明瞭な眼があり、また、中心を取り巻く雲域は

きれいな円対称となっていて強い台風に通のパターンを示している。中心に廻り込む積乱雲は、幅広いバンド状となっていることが認められる。衛星画像から台風の強度を推測する場合、このバンドの状態解析は重要な必要条件の一つである。積乱雲の頂部の羽毛状雲は上層風の方向を示唆しており、外側の雲バンドの頂部の羽毛状雲は前方の寒冷前線の上に重なっている。台風から南東に伸びている雲列は、台風の温床である熱帯収束帯に連なっている。台風の発達に寄与する役割をもっているらしいが、早い時点でこのひもが切り離されて発達している例も多く見受けられる。

## 気象学会および関連学会行事予定

日本気象学会総会・春季大会	昭和54年5月22日～24日	日本気象学会	気象庁
第23回山の気象シンポジウム	昭和54年6月23日		気象庁第1会議室
第16回理工学における同位元素研究発表会	昭和54年6月25日～27日		国立教育会館